

QUALIFYING NEWS FLASH

Formula NIPPON

Rd. 7

予選速報

2012 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第7戦 2012年11月4日(日) 鈴鹿サーキット

www.f-nippon.co.jp

発行人/編集人:
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

BRIDGESTONE

Series Supporter

八人人気酒造

観光庁
Japan Tourism Agency

Take Free
ご自由におとりください



チャンピオン争いは混戦模様
Race1は松田次生が、Race2はデ・オリベイラがポールポジションを獲得
好調のTEAM IMPUL。塚越(DOCOMO TEAM DANDELION RACING)は3位、2位と好位置



QUALIFYING NEWS FLASH plus

11月3日(土)、全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第7戦(最終戦)の公式予選が、鈴鹿サーキット(三重県)で行われた。2レース制の今大会、ポールポジションを2レースそれぞれ別となる。レース1はNo.20 松田次生(Team IMPUL)が、レース2はNo.19 ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ(Team IMPUL)が獲得した。

中嶋一貴が厳しい状況に追い込まれる

まず18台から13台に絞り込まれる20分間のQ1。決勝のレース1のグリッドもここで決まる。開始された午後1時30分で、気温は14℃、路面温度は16℃。まず各選手、午前中に使用したユーズドタイヤで走行。早くも1分39秒台に入れてきたのは、No.41 塚越広大(DOCOMO TEAM DANDELION RACING)。チームメイトNo.40 伊沢拓也も僅差で続く。その後、一旦ピットに戻り、セッションの残り時間が6分ころから、ニュータイヤを装着してコースへ。ここで伊沢が1分39秒244でトップに立ち、直後に塚越。だが、最後にトップタイムを叩き出したのは、No.20 松田次生(Team IMPUL)だ。1分39秒231でレース1のポールポジションを獲得。一方、苦戦を強いられたのは、PETRONAS TEAM TOM'Sの2人。No.1 アンドレ・ロッセラーは5番手に留まったが、ランキングトップのNo.2 中嶋一貴(PETRONAS TEAM TOM'S)は、ギリギリでQ2進出となる13番手。さらにダブルチェッカーを受けるといふミスで、レース1では3グリッド降格のペナルティー。16番手からのスタートとなる。Q1敗退は、No.39 国本雄資(Projectu/cerumo・INGING)、No.3 安田裕信(KONDO RACING)、



No.10 金石年弘(HP REAL RACING)、No.62 嵯峨宏紀(TOCHIGI Le Beausset Motorsport)、No.18 折目達(SGC by KCMG)だった。

14時からは、13台から8台に絞り込まれる7分間のQ2が始まる。まずNo.8 ロック・デュバル(Team KYGNUS SUNOCO)が出る。続いて伊沢、塚越、松田、デ・オリベイラ、ロッセラー、No.38 平手晃平(Projectu/cerumo・INGING)、No.31 中嶋大祐(NAKAJIMA RACING)、No.32 小暮卓史(NAKAJIMA RACING)、一貴、No.15 佐藤琢磨(Team 無限)、No.7 大嶋和也(Team LeMans)、No.16 山本尚貴(Team 無限)とコースイン。各自、タイヤを温めると、残り2分でアタック開始。デュバルが1分39秒217でトップ。これを塚越が上回る。だが、松田がQ1に続いて速さを見せ、唯一人1分38秒873のコースレコードを叩き出した。Q2で敗

退は、一貴、平手、琢磨、大祐、大嶋。一貴はレース2も9番グリッドからと、後方からのスタート。厳しいタイトル争いを強いられることになった。

Q2の松田が出したレコードをデ・オリベイラが更新

14時17分、レース2のポールポジションと上位8位までが決定するQ3が開始。ここでもデュバルが先頭でコースイン。小暮、ロッセラー、デ・オリベイラ、伊沢、松田、塚越と続き、最後に山本がピットを後する。残り2分あまりから皆アタックに入る。デュバルが、1分39秒259をマーク。これを小暮が上回り、ロッセラーは、小暮には届かず。

一気にタイムアップしてきたのは、デ・オリベイラ。Q2で松田がマークしたコースレコードを上回る1分38秒700を叩き出し、最上位に躍り出る。この後、いずれもデ・オリベイラには及ばず。これでデ・オリベイラがレース2のポールを獲得した。ランキング2位の塚越が2番手、同4位の伊沢は6位、同3位のロッセラーは7番手のスタートになった。





タイトル争いの邪魔はしたくないですが、目立つ走りがしたい

周回数が少ない第1レースはポールを獲らないと勝てないと思い、必死にQ1を走りました。朝からクルマをアジャストした流れがうまく当たりましたね。ただ、Q3ではフロントタイヤのグリップを向上させたいと、セットアップをやり過ぎました。それが裏目に出ましたね。ただ、タイヤ交換義務付けのレースで3位なので優勝も狙える。とにかく2レースともスタートを決めて表彰台の真真中でレースを終えたい。今回、4年ぶりのポール獲得はホ

ントにうれしい。やっと獲れたという感じです。星野さんが僕を選んでくれたのに、なかなか結果が出せなくて恩返しができなかったですから。今回は、ダンデライアンに打ち勝ってくれと指令が出ていて、それを意識したことがポール獲得に繋がりが良かったと思います。タイトル争いの邪魔はしたくないですが、僕も(小林)可夢偉選手と一緒にまだ来年の就職が決まっていなので(笑)、目立つ走りをしたいですね。



拮抗した戦いになるだろうから、スタートが決め手になる

今回の予選はとても僅差の状態、Q1ではトップ3に入ることができずにとっても残念だった。でもQ1からQ3にかけてクルマを向上させることができたのは良かったかな。Q1で足りなかったものを補うためにQ2、Q3で改善したことが結果的にQ3でのトップタイムに繋がったね。クルマは満足のいくものをチームが用意してくれて、前回のSUGOからすごく進化しているんだ。セットアップの見直しなど、エンジニアを含めて

チームでしっかりと話し合いの時間を作ってクルマを向上させることに努めてきた。リスクがあってもやれることをやったことが結果に繋がったと思うね。今回、ラップタイムがみんなとても僅差だから、明日のレースに向けていいクルマのセットが必要になるよね。とにかく拮抗した戦いになるだろうから、スタートが決め手になる。チャンピオンを獲得するためにベストを尽くさないと。ちょっとしたミスも許されないから、がんばるよ。

最終決戦! 鈴鹿で凱歌を挙げるのは果たして誰だ!?

諦めたらそこでレースは終わり。最後のチェッカーが振られるまで全速全開!!



2レースを自分らしく楽しく乗れたらいいかな
今日は走りをはじめからそんなに悪くなく順調に進んでいました。Q1に関しては、ちょっと失敗したところもありましたが、トータルで自分のベストは出せたと思うので、いい予選だったと思います。今回は、何よりもすごく楽しいなと思いつながりながら乗れているので、明日のレースも大丈夫じゃないかなと思います。決勝レースに向けて考えると、とにかくいっぱい悩み事が出てきそうなので、決勝の2レースを自分らしく楽しく乗れたらいいかな、と。結果的にゴールしてチェッカー受けて、チームからチャンピオンを獲った、という声が聞けるようベストを尽くしたいですね。



悔いなく粘り強く走って、最後は笑って終わりたい
ポールを目指して鈴鹿に乗り込んだのですが、思いの外、朝からいいパフォーマンスを出し切れず、何をすればいいのかわからない部分がありました。このままQ3をやっても...と、僕からチームにアイデアを伝えたらそれをやってみるかということになり、それがいい方向に行き手応えも良くなりました。ポールを狙っていたので結果は本意ですが、手応えのないところから最終的にいいところまで引き出したと思うし、一日の流れとしては得るものがあつた。いい流れができて良かったと思います。決勝は悔いなく粘り強く走って、最後は笑って終わりたいと思います。



僕としては久々に楽しめるレースができる
朝の(トップ)タイムはスイートスポットに当たったという感じでした(笑)。クルマはすごく良かったんですが、でも全然手応えはなかったんです。どうしてトップタイムなのかなあという雰囲気でした。予選ではそのマージンを取りすぎたかなという感じです。クルマにはポテンシャルがすごくありましたが、本来の32号車の速さではなかったような気がします。今まですごく苦勞してきたので、この結果でもいいと思います。僕らは失うものが何もないので、レースではガンガンいきたい。守るものがない分、僕としては久々に楽しめるレースができると思います。



少なくともチームタイトルは絶対獲らなきゃいけない
朝から調子が良く、フィーリング的には前回の菅生のように走れて、Q1は自分の中でうまく行ったと思っていたのですが、僅かの差で負けてしまいました。悪いポジションではないのですが、何よりもQ3で6番手になってしまったことが今は非常に悔しいです。Q1からQ2にかけてセットを変更したんですが、Q3はそのままきました。クルマに対しては不満もなく、自分の中で攻め切った結果でした。明日はレース1で絶対に勝つという意識が強いです。また、チームのガンバリに応える意味でも少なくともチームタイトルは絶対獲らなきゃいけないと思っています。



ベストを尽くすし、最後まで諦めずに戦う
どうしたの? って言われても、何も特別なことはないよ。クルマのバランスは良かったし、トラブルもなければミスもなかった。だけど、スピードが足りなかったから、何が起こっていたのかチェックしないとね。今日のレース1に関しては、5番手からだから、とにかくいいスタートを切るように努めれば、何とか表彰台圏内に行けるんじゃないかなと思う。レース2に関してはチームを信じるしかない。きっと素早くタイヤ交換してくれるはずだからね。タイトル争いの的には難しいと分かっているけど、ベストを尽くすし、最後まで諦めずに戦うよ。



できるだけのことをやるつもりです
結果を見れば分かりますけど、多分7~9番手ぐらいが、どのみち予選での居場所だったのかなって感じがします。朝の走り出しから決して良くはなかったんですけど、Q1が何か妙にはずれていましたね。Q2に向けて、クルマを少し開幕戦の時のような感じに変えたら、まあまあ良かったんですけど。決勝のレース1に関しては、どうしようもない位置なので、地道にコツコツと上がって行けるところまで行くしかないです。レース2に関しては、9番手からスタートですけど、少しでもポイントを取れるように、できるだけのことをやるつもりです。

レース1最大の見どころはスタート! ピットインありのレース2はチーム力も問われる

RACE 1 今日の午前中に行われるレース1は、わずか20周というスプリントレース。ピットインもなく、まさに“行って来い”の1戦となる。そのため、ポジションの入れ代わりは、コース上でしか起こらないが、現在のフォーミュラ・ニッポンでは各ドライバーの差がほとんどない状況なので、なかなかオーバーテイクが難しい。だからこそ、大きく波乱が起こるとすれば、その最大のポイントとなるのはスタートだ。

ここで注目したいのは、4年ぶりにポールポジションを獲得した松田次生。第5戦もてぎで表彰台を目前にしてトラブルに泣いた松田にとっては、今日は是非でも勝ちたいところ。今年、タイトル争いに加わっていない分、逆にこの最終戦は優勝で締めくりたいはずだ。

チャンピオンを目指しているドライバーたちにとっては、この松田の存在が逆にどう働くのかがポイント。伊沢拓也、塚越広大、デ・オリベイラ、そしてロッテラーとタイトルの権利を残すドライバーが、松田の後ろにズラリと並んでいるが、そこからスタートで抜け出すのは誰なのか。ここが大きな勝負の分かれ目となる。



RACE 2 午後に行われるレース2は28周。レース1と同様、こちらもスプリントレースではあるが、唯一違っているのはタイヤ4輪交換の義務付けがあることだ。このタイヤ交換をどのタイミングで行うのかが、ひとつのポイントとなるが、予選を不本意なポジションで終えたドライバー、あるいはスタートでポジションを落としたドライバーは、オープニングラップを終えたところですぐピットに入る可能性が高い。

逆に、スタートで好ポジションを切ったドライバーに関しては、その後の展開次第となるが、タイミングをいかに計るか、その判断にチームの力が表れることになる。その前に、やはりレース1と同様、大きなポイントとなるのはスタート。タイトル候補者としては、オリベイラがPP、塚越が2番手、伊沢が6番手、ロッテラーが7番手、一貴が9番手。フロントロウの2台は、当然トップを狙って1コーナーに向かうことになるが、それ以外のドライバーたちは、どんな動きを見せるのか。いずれにしても、いよいよ今日、今年のチャンピオンが決まる。誰が最後に笑うのか。もちろん、そこが最大の見どころだ。

DRIVERS TITLE SIMULATION

No.	Driver	Rd.7戦予選終了時 [差]	1位 (8pt)		2位 (4pt)		3位 (3pt)		4位 (2.5pt)		5位 (2pt)		6位 (1.5pt)		7位 (1pt)		8位 (0.5pt)		9位 (0pt)		Race 1	Race 2	Total
			Race 1	Race 2	Race 1	Race 2	Race 1	Race 2	Race 1	Race 2	Race 1	Race 2	Race 1	Race 2	Race 1	Race 2	Race 1	Race 2					
2	中嶋 一貴	38	46	+8	42	+4	41	+3	40.5	+2.5	40	+2	39.5	+1.5	39	+1	38.5	+0.5	38				
41	塚越 広大	37[-1]	45		41		40		39.5		39		38.5		38		37.5		37				
1	アンドレ・ロッテラー	33[-5]	41		37		36		35.5		35		34.5		34		33.5		33				
19	J.P.デ・オリベイラ	32[-6]	40		36		35		34.5		34		33.5		33		32.5		32				
40	伊沢 拓也	32[-6]	40		36		35		34.5		34		33.5		33		32.5		32				

レース1、レース2の順位で右記のポイントが与えられる。レース1の順位により上記のポイントとなる。これにレース2のポイントを合計した結果で上位の者がシリーズチャンピオンとなる。
※ドライバーにはポールポジション獲得で1ポイントを加算。 ※最終戦のみ優勝者にボーナスポイント3Pが与えられる。

Po.	No.	Driver	Point
1	2	中嶋 一貴	38
2	41	塚越 広大	37
3	1	アンドレ・ロッテラー	33
4	19	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ	32
5	40	伊沢 拓也	32
6	8	ロイック・デュバル	20
7	7	大嶋和也	20
8	20	松田 次生	16
9	38	平手 晃平	6
10	16	山本 尚貴	4
11	10	金石 年弘	2
12	39	国本 雄資	2
15		佐藤 琢磨	0
3		安田 裕信	0
31		中嶋 大祐	0
62		嵯峨 宏紀	0
32		小暮 卓史	0
18		折目 遼	0
11		中山友貴	0

POINT SYSTEM

	PP	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下
最終戦 1大会 2レース	1	5+3	4	3	2.5	2	1.5	1	0.5	0

来年スタートのスーパーフォーミュラ、ロゴマーク決定! お披露目はピットウォークにて。新ロゴステッカーも配付



11月3日、最終戦の鈴鹿大会予選日のお昼に恒例の「フォーミュラ・ニッポンサタデーミーティング」が行われた。いつものようにお茶を飲みながらの記者懇談ではあったが、今回は来年からスタートする『全日本選手権スーパーフォーミュラ

シリーズ』のロゴマークが記者発表されるとあって、ワクワク感の漂う会見となった。白井裕JRP社長がロゴマークを手に持って公開すると、多くのカメラマンが迫って多数のフラッシュが焚かれた。ファンの皆さんも気になるスーパーフォーミュラのロゴマークだが、一般へ向けての発表は決勝日12時30分からのピットウォークにて行われる。その際に新ロゴのステッカーも配付されるので、ぜひ入手してほしい。

もうひとつの話題は、2013年の開催スケジュールに関して。話題を呼んでいる韓国大会は8月25日を予定しており、この

大会には選手権が懸かることになった。これにより全7戦を行う2013年シリーズは、8月発表の開催カレンダーから5月に予定されていたツインリンクもてぎの1戦がキャンセルされることになった。韓国のインジュ・サーキットの建設は順調でFIAの査察も済み、来年1月末には完成予定とのことだ。なお、11月1日にJAFより発表された2013年全日本選手権カレンダーでは、韓国大会が記載されずに全6戦となっているが、白井社長は「日本、韓国双方は開催に向け全力を挙げており、2013年は全7戦で行うつもりだ」と語った。

Starting Grid

予選日: 2012年11月3日(土)
Q1: 天候: 曇り / 路面: ドライ
Q2: 天候: 曇り / 路面: ドライ
Q3: 天候: 曇り / 路面: ドライ

start: 10:20 RACE 1

1	松田 次生 TEAM IMPUL TOYOTA RV8K Q1: 1'39.231	20	1	伊沢 拓也 DOCOMO TEAM DANDELION RACING HONDA HR12E Q1: 1'39.244	40
2	塚越 広大 DOCOMO TEAM DANDELION RACING HONDA HR12E Q1: 1'39.336	41	2	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ TEAM IMPUL TOYOTA RV8K Q1: 1'39.441	19
3	アンドレ・ロッテラー PETRONAS TEAM TOM'S TOYOTA RV8K Q1: 1'39.460	1	3	小暮 卓史 NAKAJIMA RACING HONDA HR12E Q1: 1'39.525	32
4	山本 尚貴 TEAM 無限 HONDA HR12E Q1: 1'39.574	16	4	ロイック・デュバル Team KYGNUS SUNOCO TOYOTA RV8K Q1: 1'39.621	8
5	佐藤 琢磨 TEAM 無限 HONDA HR12E Q1: 1'39.784	15	5	大嶋 和也 Team LeMans TOYOTA RV8K Q1: 1'39.900	7
6	平手 晃平 Project μ/cerumo・INGING TOYOTA RV8K Q1: 1'39.958	38	6	中嶋 大祐 NAKAJIMA RACING HONDA HR12E Q1: 1'39.963	31
7	国本 雄資 Project μ/cerumo・INGING TOYOTA RV8K Q1: 1'40.267	39	7	安田 裕信 KONDO RACING TOYOTA RV8K Q1: 1'40.626	3
8	金石 年弘 HP REAL RACING HONDA HR12E Q1: 1'41.227	10	8	中嶋 一貴* PETRONAS TEAM TOM'S TOYOTA RV8K Q1: 1'39.979	2
9	嵯峨 宏紀 TOCHIGI Le Beausset Motorsports TOYOTA RV8K Q1: 1'41.494	62	9	折目 遼 SGC by KCMG TOYOTA RV8K Q1: 1'43.736	18

start: 14:30 RACE 2

1	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ TEAM IMPUL TOYOTA RV8K Q3: R 1'38.700	19	1	塚越 広大 DOCOMO TEAM DANDELION RACING HONDA HR12E Q3: R 1'38.774	41
2	松田 次生 TEAM IMPUL TOYOTA RV8K Q3: R 1'38.870	20	2	山本 尚貴 TEAM 無限 HONDA HR12E Q3: 1'38.904	16
3	小暮 卓史 NAKAJIMA RACING HONDA HR12E Q3: 1'38.934	32	3	伊沢 拓也 DOCOMO TEAM DANDELION RACING HONDA HR12E Q3: 1'38.958	40
4	アンドレ・ロッテラー PETRONAS TEAM TOM'S TOYOTA RV8K Q3: 1'39.092	1	4	ロイック・デュバル Team KYGNUS SUNOCO TOYOTA RV8K Q3: 1'39.259	8
5	中嶋 一貴 PETRONAS TEAM TOM'S TOYOTA RV8K Q2: 1'39.452	2	5	平手 晃平 Project μ/cerumo・INGING TOYOTA RV8K Q2: 1'39.511	38
6	佐藤 琢磨 TEAM 無限 HONDA HR12E Q2: 1'39.533	15	6	中嶋 大祐 NAKAJIMA RACING HONDA HR12E Q2: 1'39.592	31
7	大嶋 和也 Team LeMans TOYOTA RV8K Q2: 1'39.861	7	7	国本 雄資 Project μ/cerumo・INGING TOYOTA RV8K Q1: 1'40.267	39
8	安田 裕信 KONDO RACING TOYOTA RV8K Q1: 1'40.626	3	8	金石 年弘 HP REAL RACING HONDA HR10E Q1: 1'41.227	10
9	嵯峨 宏紀 TOCHIGI Le Beausset Motorsports TOYOTA RV8K Q1: 1'41.494	62	9	折目 遼 SGC by KCMG TOYOTA RV8K Q1: 1'43.736	18

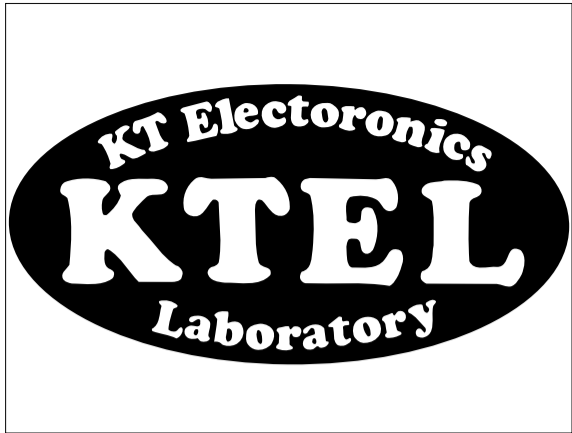
R: コースレコード
予選通過基準タイム: 1'46.177 / Q1/107%

*本スタートグリッド表は予選速報編集部が制作したものであり、主催者発表ではありません。

Team Pit

1/2	*	*	19/20	*	40/41	*	7/8	*	31/32	*	38/39	*	15/16	*	18	*	10	*	62	*	3	*	*	*																	
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52

※1st Corner



Formula NIPPON '12

モータースポーツのリーディングペーパー

購読のお申し込みは

0120-026-999
FAX 0120-026-993
http://www.chunichi.co.jp/chuspo/

1ヶ月 2,955円 1部売り 120円

東京中日スポーツ

本紙への広告掲載のお問合せは:
JRP 株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
03-3237-0131 http://www.f-nippon.co.jp

SUPPORT RACES Result (Top10)

MUGEN POWER Cup CIVIC One Make Race Rd.5 予選結果

Po	No	Driver	Machine	Time/Gap
1	16	ヒロボン	NUTEC制動屋GPO東野レーシング	2'22.072
2	4	太田 侑弥	BRIDE ED-PETRONAS+FD2	2'22.578
3	8	伊藤 博之	DRAWING ms μMoty's FD2	2'22.672
4	72	谷口 行規	サーゼント-ENDLESS-EURO-CIVIC	2'22.672
5	13	トモアキ	DIXCELカーコンビニ倶楽部88SSR	2'22.891
6	86	水越 真一	NUTECエンジンレスCIVIC	2'22.953
7	7	大西 隆行	オートボックス G-7 HOLDIMGS INC.CIVIC	2'23.274
8	27	高島 登	エムテックス制動屋SSRシビック	2'23.962
9	38	カンソソホ	1KOREA制動屋SSRシビックMTEX	1'24.166
10	5	RIKU	シビックタイプRSTA	1'25.179

天気:曇り/コースドライ/出走:15台

Lap up Formula NIPPON!

2011 Formula NIPPON 総集編DVD絶賛発売中!

初参戦の若きF1経験者・中嶋一貴が刺激になったか、実力がありながら「無冠の帝王」に甘んじていたアンドレ・ロッターがついに覚醒! 山本尚貴や塚越広大といった若手の台頭やロッターと前チャンプのデ・オリベira、草野天・小暮卓史との激闘など、名場面の連続だった2011年フォーミュラ・ニッポンをここに再現!! さらにJAF GPでのデッドヒート、スペシャルインタビューなども収録。お求めは、J SPORTSオンラインショップ (<http://store.jsports.co.jp/>)、その他取扱店で。定価3,990円(税込)



レアなプレゼントが当たる優勝者宛クイズ実施中!

フォーミュラ・ニッポン 公式モバイルサイト <http://motorsports.ch/fn/index.php>
現地観戦には欠かせないライブタイミングを始めとした速報情報や、動画などの見たいコンテンツが満載! スマートフォン(全キャリア対応)からもアクセス可能です。
※Formula NIPPON公式モバイルサイトは、「モータースポーツチャンネル」内、無料特別サイトとして運用しています。
※docomo, au, SoftBank, スマートフォン共通。
※パソコンからのアクセスはできません。
※旧サイトの会員情報は新サイトへは引き継がれません。大変お手数ですが新サイトにて再度登録をお願い致します。



J SPORTS

J SPORTSは今年もFormula NIPPONを全戦放映。サーキットに来場できないファンに、レースの臨場感をお届けします。

- フォーミュラ・ニッポン2012 第7戦 決勝
決勝レース1 11/4(日) 10:00~12:00 J SPORTS3(生放送)
決勝レース2 11/4(日) 14:00~16:30 J SPORTS3(生放送)
決勝再放送 11/5(月) 18:00~21:00 J SPORTS3
11/5(月) 25:00~28:00 J SPORTS1
11/7(水) 15:00~18:00 J SPORTS3
- フォーミュラ・ニッポン2012 ダイジェスト 第7戦 鈴鹿サーキット
11/16(金)12:15~12:30 J SPORTS2 ほかりレポート放送あり



BSフジ

決勝日の翌週日曜日(再放送は翌々土曜日)にレースダイジェストを放映します。

- フォーミュラ・ニッポン2012 第7戦 鈴鹿サーキット
11/10(土) 18:00~18:55[再放送:11/18(日) 18:00~18:55]



GyaO! (オンデマンド放送)

大会終了後14日後、24:00よりオンデマンド配信
<http://gyao.yahoo.co.jp/>

サマリー動画も配信!

フォーミュラ・ニッポン 公式ウェブサイト

<http://www.f-nippon.co.jp>

最新ニュースは随時更新。レースのサマリー動画や、フォーミュラ・ニッポンのことをさらに深く理解できる特集記事など、レースウィークでなくても楽しめるコンテンツ満載。



「学生フォーミュラ」展示中!

大学生、専門学校生が「小さくて、本格的なフォーミュラカー」を自ら企画して製作し、走らせる「ものづくりコンペティション」が「学生フォーミュラ」。今年も9月初旬に82校がエントリーして全日本大会が開催されました。その舞台上でシビアに競い合ったマシンとチームが、今日は鈴鹿に再結集。GPスクエアにて展示中です。若者たちの知恵と汗の結晶をじっくりと見て、作って走らせた本人たちに何でも聞いてください。お待ちしております!



写真:(公社)自動車技術会

タイムスケジュール(決勝日)

8:40 >>	FCJ Round12 決勝(17周)
10:20 >>	Formula NIPPON 決勝 Race1(20周)
11:40 >>	CIVIC 決勝(10周)
12:30 >>	13:25 PIT WALK
14:30 >>	Formula NIPPON 決勝 Race2(28周)

2012 フォーミュラ・ニッポン年間スケジュール

Rd.1	4/14,15	鈴鹿サーキット
Rd.2	5/12,13	ツインリンクもてぎ
Rd.3	5/26,27	オートボリス
Rd.4	7/14,15	富士スピードウェイ
Rd.5	8/4,5	ツインリンクもてぎ
Rd.6	9/22,23	スポーツランドSUGO
Rd.7	11/3,4	鈴鹿サーキット
SPL	11/16~18	FUJI SPRINT CUP



FCJ第10戦は平川、第11戦は松下が今季5勝目 タイトルの行方は最終戦に持ち越しとなる



2012年フォーミュラチャレンジ・ジャパン第10戦 決勝結果

Po	No	Driver	Machine	Lap	Time
1	4	平川 亮	FTRSクラリアン/広島トヨペットFCJ	10	20'23.313
2	10	松下 信治	HFDP/SRS-F/ARTA/コチラR	10	20'26.717
3	3	藤谷 大幹	FTRS	10	20'29.697
4	12	高星 明誠	NDDP DAISHIN FCJ	10	20'30.012
5	11	坪井 翔	FTRS TMC FCJ	10	20'35.217
6	8	清原 尊太	HFDP/SRS-F/ARTA/コチラR	10	20'38.177
7	1	川端 伸太郎	FTRSスカラシップFCJ	10	20'39.628
8	13	藤波 清斗	NDDP FCJ	10	20'39.327
9	9	道見 真也	FTRS SCHOLARSHIP FCJ	10	20'42.184
10	14	三笠 雄一	石焼ら〜めん/火山FTRSFCJ	10	20'43.565
11	20	石川 京侍	HFDP/SRS-F/コチラR	10	20'44.179
12	7	小川 諒	宝華Racing with DUNLOP	10	20'45.183
13	6	NINDRA-PAYOONG	FTRS PTT	10	20'46.696
14	2	黒崎 駿	HFDP/SRS スカラシップ/コチラR	10	20'49.749
15	18	柴田 隆之介	アスト★HondaCars三重北★SBT	10	20'55.269
16	21	松田 敬裕	GRID	10	20'55.573
17	17	陣川 雄大	東京モータースポーツカレッジ	10	20'56.348
18	19	IM CHE WON	KIM'S RACING	10	21'02.951
19	16	三浦 愛	EXEDY FC106	10	21'20.873
以上完走(規定周回数9Laps)					
5	周藤 康平	チームSPVFCJ		10	6'21.106



2012年フォーミュラチャレンジ・ジャパン第11戦 決勝結果

Po	No	Driver	Machine	Lap	Time
1	10	松下 信治	HFDP/SRS-F/ARTA/コチラR	12	24'28.534
2	12	高星 明誠	NDDP DAISHIN FCJ	12	24'30.915
3	1	川端 伸太郎	FTRSスカラシップFCJ	12	24'34.909
4	11	坪井 翔	FTRS TMC FCJ	12	24'39.237
5	20	石川 京侍	HFDP/SRS-F/コチラR	12	24'39.698
6	7	小川 諒	宝華Racing with DUNLOP	12	24'41.535
7	8	清原 尊太	HFDP/SRS-F/ARTA/コチラR	12	24'42.383
8	9	道見 真也	FTRS SCHOLARSHIP FCJ	12	24'45.486
9	6	NINDRA-PAYOONG	FTRS PTT	12	24'45.918
10	14	三笠 雄一	石焼ら〜めん/火山FTRSFCJ	12	24'47.439
11	5	周藤 康平	チームSPVFCJ	12	24'48.286
12	18	柴田 隆之介	アスト★HondaCars三重北★SBT	12	24'51.981
13	21	松田 敬裕	GRID	12	24'52.522
14	17	陣川 雄大	東京モータースポーツカレッジ	12	24'56.208
15	16	三浦 愛	EXEDY FC106	12	24'56.804
16	2	黒崎 駿	HFDP/SRS スカラシップ/コチラR	12	24'58.192
17	13	藤波 清斗	NDDP FCJ	12	24'58.681
18	3	藤谷 大幹	FTRS	10	25'45.089
以上完走(規定周回数10Laps)					
19	IM CHE WON	KIM'S RACING		3	6'15.193
4	平川 亮	FTRSクラリアン/広島トヨペットFCJ		0	

フォーミュラチャレンジ・ジャパン(FCJ)の第10戦の公式予選と決勝、および第11戦の決勝が3日(土)に行われた。この日の鈴鹿サーキットは気温の低さが幸いして予選から好タイムが続出、上位5人が従来のコースレコードを上回る2分1秒台を記録した。ポールポジションはポイントリーダーのNo.4 平川亮となった。

第10戦決勝はポールの平川がスタートからトップに立ち、そのまま10周を逃げ切って今季5勝目を挙げ、ファステストラップをも記録した。2位にはランキング2位のNo.10 松下信治が入った。これで平川と松下のポイント差は14に広がった。

しかし第11戦決勝では、ポールスタートの平川が1周目のデグナーで飛び出して早々に戦列離脱。代わって松下がトップに立ち、2位にNo.12 高星明誠を従えて12周を逃げ切り、平川とのポイント差を4にまで縮めた。



QUALIFYING NEWS FLASH Plus

左のQRコードからアクセス!

予選速報電子版「QUALIFYING NEWS FLASH Plus」には紙面では伝えきれないコンテンツがイッパイ! 全ドライバーの写真、マシンの写真、動画や、普段は見ることのできない公式通知など情報満載! 予選速報を読み終えたらQRコードからアクセス!!

無料

※コンテンツ内容は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。